

第1回 防災推進国民大会

大規模災害への備え～過去に学び未来を拓く～

プログラム



平成28年
[日時] 8月27日(土)・28日(日)
10:00～17:00 10:00～15:00
(一部16:30)

[会場] 東京大学本郷キャンパス
(安田講堂/山上会館/小柴ホール/理学部棟)

主催：第1回防災推進国民大会実行委員会（内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）

参加無料

好きな時間に、好きな催しに、ご自由にご参加ください！

詳しくは公式ホームページで <http://bosai-kokutai.jp>

ぼうさいこくたい

検索



内閣府

安田講堂

8月27日(土)

10:00～12:40

開会式&メインフォーラム

開会式

10:00～10:15

開会宣言 松本 純 内閣府特命担当大臣(防災)
主催者挨拶 近衛 忠輝 防災推進協議会会長/防災推進国民会議議長(日本赤十字社社長)

他

特別基調講演

10:15～10:40

大規模災害への備え～過去に学び未来を拓く～ 大西 隆 日本学術会議会長

これまでの自然災害による大きな犠牲の下に得られた貴重な教訓を活かし、災害から命や財産を守るためには、行政による「公助」だけでなく、国民一人一人が自ら取り組む「自助」、互いに助け合う「共助」が不可欠です。大西隆 日本学術会議会長が「自助」「共助」を中心に、大規模災害への備えについて語ります。

特別シンポジウム

～各界の代表者が地域における災害の備えと連携について語る～

10:50～12:40

東日本大震災や平成28年熊本地震を踏まえ、防災推進国民会議を構成する消防、福祉、教育、経済、地方自治体など各界の代表者が、それぞれの立場から、地域や社会全体としての防災力を高めるにはどうすべきか、意見を交わし、提案します。

パネリスト

秋本 敏文 日本消防協会 会長
栗田 暢之 日本防火・防災協会 会長
寺尾 徹 全国社会福祉協議会 常務理事
寺本 充 日本PTA全国協議会 会長

徳植 桂治 経済同友会 震災復興委員会 委員長
森 民夫 全国市長会 会長
加藤 久喜 内閣府政策統括官(防災担当)
田中 淳 東京大学大学院情報学環 教授【モデレーター】

12:50～17:00

防災実践者による分野別のディスカッション

1. 市民セクターの連携

12:50～14:05

ボランティア・NPO等市民セクター間の連携の深化の方策と行政・企業等多様なセクターとの連携のあるべき姿を模索します。

パネリスト

木村 忠治 熊本県健康福祉部健康福祉政策課福祉のまちづくり室 室長
白土 直樹 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD) 代表
園崎 秀治 日本赤十字社事業局 救護・福祉部 次長
長澤 恵美子 全国社会福祉協議会全国ボランティア・市民活動振興センター 副部長
長澤 恵美子 経団連事業サービス 事務局長代理(1%クラブコーディネーター)

コーディネーター

鍵屋 一 跡見学園女子大学 観光コミュニケーション学部 教授

2. 企業の対応と自治体との連携

14:15～15:30

災害時における企業の取組や対応、自治体や被災者の支援等のあり方について議論します。

パネリスト

栗飯原勝胤 (株)セブン&アイ・ホールディングス 執行役員
青竹 豊 日本生活協同組合連合会 執行役員
磯邊 浩宣 富士通(株) 政策渉外室 シニアマネージャー
松本 修一 (株)プレシード 社長

コメンテーター

加藤 孝明 東京大学 生産技術研究所 准教授

コーディネーター

丸谷 浩明 東北大学 災害科学国際研究所 教授
福和 伸夫 名古屋大学 減災連携研究センター センター長・教授

3. 熊本地震と東日本大震災に学ぶ地域の防災力

15:40～17:00

熊本地震の現地での活躍、支援の経験を踏まえ、東日本大震災前から継続的な防災教育が行われてきた学校の今の取り組みを共有し、地域の防災力の未来に向けたメッセージを発信します。

パネリスト

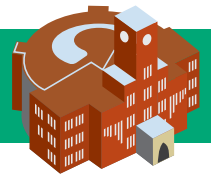
大原 明和 熊本県消防協会 会長
東家 武子 熊本県地域婦人会連絡協議会 会長
富田セツコ 熊本県女性防火防災クラブ連合会 会長
中村 一也 熊本市消防局長/熊本県消防長 会長
井伊久美子 日本看護協会 専務理事
石川 広己 日本医師会 常任理事
永田 泰造 日本薬剤師会 常務理事
気仙沼市立階上中学校 生徒会役員

コメンテーター

加藤 孝明 東京大学 生産技術研究所 准教授

コーディネーター

中川 和之 時事通信社 解説委員
池上三喜子 市民防災研究所 理事



総合司会：山口 勝（NHK放送文化研究所）

8月28日 日

10:00～12:00

52学会の結集による防災への挑戦 - 熊本地震における取り組み -

主催 防災学術連携体（52学会）／日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会

本シンポジウムでは、熊本地震における現象、被災状況等を解説するとともに、その取り組みから、防災に関わる先端技術・研究の一部を、一般市民を対象として分かりやすくビジュアルで紹介する。また、日本学術会議や各学会が勢揃いして、防災学術連携体の紹介と学会連携で日本の防災力を高めていくことを宣言する。

● プログラム 司会 防災学術連携体事務局長 塚田 幸広（土木学会専務理事）

挨拶 大西 隆 日本学術会議会長 和田 章 防災学術連携体代表幹事（日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員長） 10:00～

防災学術連携体の概要紹介 米田 雅子 防災学術連携体事務局長（日本学術会議会員） 10:06～

熊本地震における学会の取り組み 10:16～（発表 各6分）

- | | | | |
|------------------|----------------|------------------|-----------------|
| ○地震の観測と現象解明 | ○地震による被災状況と対策 | ○情報提供・避難 | ○震災後の対応から復旧・復興 |
| 高橋 幸弘 日本地球惑星科学連合 | 松村 秀一 日本建築学会 | 目黒 公郎 日本地震工学会 | 森口 祐一 廃棄物資源循環学会 |
| 山岡 耕春 日本地震学会 | 古屋 弘 地盤工学会 | 石川 永子 地域安全学会 | 山本 佳世子 日本計画行政学会 |
| 宇根 寛 日本活断層学会 | 落合 博貴 日本地すべり学会 | 吉川 耕司 地理情報システム学会 | |
| 井口 隆 日本応用地質学会 | 石川 芳治 砂防学会 | 近藤 久禎 日本集団災害医学会 | |
| | 廣井 悠 日本火災学会 | | |

防災・減災への防災学術連携体参加学会からのメッセージ 11:40～

上記学会および、日本古生物学会、横断連合、日本火山学会、日本ロボット学会、日本救急医学会、日本災害復興学会などの代表が登壇の予定／日本学術会議の代表 廣瀬 典昭 防災学術連携体代表幹事（土木学会前会長）

閉会の言葉 依田 照彦 防災学術連携体副代表幹事（日本学術会議会員） 11:57～

12:30～14:30

世界をリードする日本の防災技術とその国際展開

主催 日本防災プラットフォーム

地震を感じるとガスを瞬時に止める技術、揺れが来る前にスマホやテレビで地震を知らせる技術。自然災害の被害を抑制するために、日本の民間企業が開発し活用されている防災技術には、世界最先端のものが多くあります。多くの人命を救う優れた日本の先端防災技術にはどのようなものがあり、それらを海外で実用化するにはどのような課題があり、解決するにはどうすればよいのかについて議論します。

● プログラム 司会 日本防災プラットフォーム 常務理事兼事務局長 土井 章

発表 12:30～13:30

- | | |
|--|---|
| ○防災技術の国際展開に向けた日本の強み（仮） | ○ミャンマーの水害と貧困の削減を目指した国際科学技術協力 |
| 木根原 良樹 三菱総合研究所 科学・安全政策研究本部 主席研究部長 | 川崎 昭如 東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 特任准教授 |
| ○自然災害にどう立ち向かう？ ICT を活用した防災・減災技術 | ○国土交通省の防災技術の国際展開 |
| JBP 防災 ICT 技術グループ（NTT データ、NEC、富士通、日立製作所）共同発表 | 岡田 智幸 国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課 国際室 国際河川技術調整官 |
| 中村 毅 株式会社NTTデータ 防災ソリューション担当課長 | |
| ○空間情報を活用した防災技術 JBP 空間情報技術グループ | |
| （国際航業、パスコ、アジア航測、RETEC）共同発表 | |
| 島村 秀樹 株式会社パスコ 取締役 | |

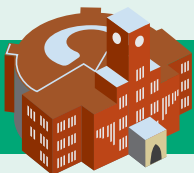
パネルディスカッション 13:30～14:30

- | | |
|--------|--|
| モデレーター | 小池 俊雄 東京大学 教授／水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）センター長 |
| パネリスト | 呉 文雄 ARISE（UNISDR 災害に強い社会に向けた民間セクター・アライアンス）理事
国際航業株式会社 代表取締役会長
岡田 智幸 国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課 国際室 国際河川技術調整官
川崎 昭如 東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 特任准教授 |
| | 木根原 良樹 三菱総合研究所 科学・安全政策研究本部 主席研究部長
隅田 真司 株式会社NTTデータ 第四公共事業部長
松岡 由季 国連国際防災戦略事務局（UNISDR）駐日事務所代表 |

14:40～15:00

閉会式

安田講堂



8月27日(土)・28日(日) 両日実施
11:00～17:00 10:00～15:00

安田講堂4Fロビー

展示

4Fロビー

九州大学附属アジア防災研究センター

平成28年(2016年)

熊本地震の被害・復旧・復興に関する調査研究報告

2016年4月に発生した熊本地震の被害状況、復旧状況、復興計画等に関する、九州大学附属アジア防災研究センターの調査研究概要を、一般市民及び行政関係者の方を対象に展示するとともに、調査概要を配布します。展示物は、ポスター以外にも、PCによる映像も予定しています。

展示

4Fロビー

レジリエンスと地域創生研究会

レジリエンスと地域創生

～伝統知とビッグデータから探る国土デザイン～

日本のレジリエンスはなぜ失われたのか、その回復方法は?伝統知も参照し国内外の喪失事例を分析するとともに、ビッグデータを活用した東日本大震災の検証、地震災害リスク評価を通じ、QOL(生活の質)に基づくスマート・シュリンク(賢い縮退)による国土デザインの方法を、一般市民及び行政関係者に紹介します。

展示

4Fロビー

I・T・O株式会社

ライフラインの早期復旧に備える「PA」

当社では「PA-13A」と呼ばれる、プロパンガスを都市ガスと同等のガスへと変換する装置を製造しております。災害時等都市ガスの供給が停止した場合においても、当PA-13Aとプロパンガス容器を接続する事で、都市ガス用の給湯器、GHP等のガス機器への臨時ガス供給が可能となります。なお、当機器は使用にあたって電力を必要としないので、停電時においても運転が可能です。



展示

4Fロビー

アールシーソリューション株式会社

緊急地震速報アプリ「ゆれくるコール」

ゆれくるコールは地震の発生をカウントダウンでお知らせする緊急地震速報アプリです。【アプリの特徴】1.通知震度やサウンドの種類が豊富! 2.地震情報が見やすく、わかりやすい! 3.安否確認や体感したゆれの共有ができる! 本展示ではパワーアップしたゆれくるコールの機能をご紹介します。



展示

3F回廊

徳島県

防災対策におけるG空間情報の活用：徳島県の取り組み

徳島県が運用する統合型GIS「災害時情報共有システム」を活用した地方公共団体向けの防災業務支援システムモデルを開発し、津波浸水・地震動シミュレーション・豪雨災害予測とDRM(デジタル道路地図)等の融合・可視化や、カーナビゲーションとの連携連携などの機能の有効性を検証した。

展示

3F回廊

日本学術会議・防災学術連携体

日本学術会議・防災学術連携体の活動

防災学術連携体は防災減災・災害復興に関わる学会のネットワークです。防災に関わる多分野の学会が、日本学術会議を要として集まり、学会の連携を進め、緊急事態時に学会間の緊密な連絡がとれるよう備えています。ポスターセッションでは、防災学術連携体および構成学会の活動内容を紹介します。

展示

3F回廊

日本地球惑星科学連合

日本地球惑星科学連合の活動

日本地球惑星科学連合(JpGU)は地球惑星科学と関連分野にかかわる研究者、学生、市民の方々と、関連の50学会からなる学術団体です。今回は日本地球惑星科学連合の活動、毎年5月に開催する連合大会での災害対応関連セッション、環境災害対応委員会の活動についてポスターでご紹介いたします。

展示

3F回廊

防災安全協会

防災でのサイネージの活用

展示

3F回廊

防災科学技術研究所

災害に強い社会の実現をめざした

防災科学技術研究所の取り組み

災害に強い社会の実現をめざした防災科学技術研究所の取り組み概要及び全国にひろがる地震・火山・津波・気象等の観測網をポスターで紹介すると共に映像を活用し、広く国民に関心を持ってもらえる展示を企画します。

展示

3F回廊

内閣府(防災担当)

映像で学ぶ大規模地震による被害と対策

近い将来、発生が危惧されている南海トラフ地震や首都直下地震。このような巨大地震が発生した場合、どのような被害が想定されるのか、また、どうすれば被害を軽減できるのか、CGを使用した映像でシミュレーションしていく。

安田講堂3F回廊

展示

3F回廊

文京区

区の防災対策

区では、災害から区民の生命、身体及び財産を保護するため、様々な防災対策を実施しています。今回は、主な区の防災対策の取組について紹介します。また、あわせて熊本地震発生に伴い、区で実施した支援についてご紹介します。

展示

3F回廊

特定非営利活動法人 リアルタイム地震・防災情報利用協議会 緊急地震速報（警報と予報）、 緊急津波避難情報システムの紹介

当NPO法人は、リアルタイム防災情報を活用・提供することで、広く災害軽減に貢献することを目指しております。本展示では、当会が配信する緊急地震速報（予報）のデモ、および、警報と予報の違いをご紹介します。また、当会が行っている「緊急津波避難情報システム」の社会実験についてご紹介します。



展示

3F回廊

岩手県

岩手県における災害応急対策に活用するシステム

岩手県では、災害発生時には関係機関が必要な情報を共有し、災害対策に活用できる機能を有した「災害情報システム」を、災害発生後には、被災者の支援を漏れなく確実にを行うため、台帳の作成・共有等の機能を有した「被災者台帳システム」を整備し、県、市町村等が災害発生当初から復興まで連携して取組む体制を整備した。

展示

3F回廊

一般社団法人全国建設業協会

つくる!なおす!まもる!地域建設業の取り組み

地震や集中豪雨、大雪や竜巻など災害が発生したとき、真っ先に災害現場に向かい、復旧活動を行っている...そんな地域の建設業の活動状況をパネル展示で紹介いたします。また、建設のしごとを知ってもらうためのお子様向けパンフレットも用意しています。



15:00 ~ 17:00

講義

2F大会議室

日本赤十字社

災害が起こった時に ~あなたが支援できること~

避難所等における共助のあり方とストレスケアなど、こころとからだの健康維持の方法。災害時の避難所等での生活における留意点、こころのケアを報告し、エコノミークラス症候群や生活不活発病の予防や衛生管理、リラクゼーション等の実演し、いくつかを会場の参加者に体験してもらう。

2F 会議室201・202

10:00 ~ 12:30

講義

会議室201・202

気象庁

気象庁ワークショップ

「経験したことのない大雨 その時どうする?」

気象災害に対する「日頃からの備え」や「防災気象情報の入手」と「必要な安全行動」を学べる「気象庁ワークショップ」を実施します。大雨災害は、地形や住環境、家族構成などの状況によって、必要な安全行動に違いがあります。気象予報士のお二人と一緒に、防災気象情報を利用して、災害から命を守る方法を学びましょう。なお、廊下からでもワークショップの様子をご覧いただけます。参加条件 小学生高学年以上



13:30 ~ 17:00

講義

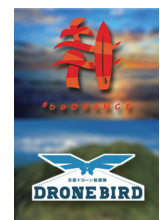
会議室201・202

一般社団法人防災ガール

津波防災に挑む!共感を集める

「ムーブメント」と「最新テクノロジー」

防災ガールと日本財団が連携し、「オレンジは、津波防災の色」と伝え高知・愛知・静岡を筆頭に沿岸部の行政や若者と海の防災を普及啓発する「#beORANGE」。同じく注目の無人航空機「ドローン」を活用し、緊急時の被災地域の最新地図情報を作成する「DRONE BIRD」。両者の新しい取り組みの発表とトークセッション、模擬沿岸部避難訓練を体験できます。



山上会館



8月27日(土)

2F 大会議室

10:00 ~ 12:00

講義

2F大会議室

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)

多様化する避難の形態に即した支援と 連携のあり方について考える

災害時の避難形態は、従前の指定避難所のみならず、指定外、車外、テント、在宅、県外、福祉避難など、多様化する傾向にあり、それぞれの支援策が求められているが、行政だけの対応には限界がある。また支援にあたる医療・保健・福祉の各団体は連携に課題を残す。警戒される巨大地震に向け、必要な連携の在り方について協議する。

13:00 ~ 15:00

講義

2F大会議室

日本赤十字社

備えあれば安心 ~救急法の基礎知識~

大規模災害時は、外部からの救助に時間を要することが想定され、それまでの間に自助、共助により自らと周囲の生命を守る知識と方法を共有する。災害時の心得や備え等を紹介し、外傷の手当など救急法の基礎や搬送方法等を実演し、いくつかを会場の参加者に体験してもらう。

1F ロビー

10:00 ~、11:30 ~

くまモン出演

©2010熊本県くまモン



B1F 会議室001

10:00 ~ 12:00

講義

会議室001

防災ジオラマ推進ネットワーク

みんなで作ろう!段ボールジオラマ ワークショップ

組立式の段ボールジオラマキットを活用したワークショップ型の防災学習プログラムを体験いただけます。参加者全員で段ボールジオラマを組み立て、楽しみながら地形の特徴や災害リスクを学びます。本来は自分の住むまちが対象となりますが、今回は宮城県石巻市を題材とし、東日本大震災の当時やその後の状況などについてもお話します。



13:30 ~ 17:00

講義

会議室001

公益社団法人 全国子ども会連合会

防災・減災意識を高める座談会

阪神淡路大震災の語り部をお迎えし、ディスカッションを通じて防災・減災に必要な心得を一人ひとりが考えるものです。年代・人数を選ばない参加型の意見交換の手法を用いますので、話し合いを重ねる中で、どんなでも、防災・減災に対する当事者意識が喚起され「心得」を会得できます。単純ですが、奥の深いプログラムです。



8月28日 日

2F 大会議室

10:00 ~ 11:50

講義

2F大会議室

日本火山学会

火山防災シンポジウム「最近の噴火にみる火山研究と防災」

最近の噴火の噴火推移、噴火対策、情報提供、避難等について各々の噴火時に中心となって活動した研究者が火山観測の結果を基に解説をおこない、今後の火山噴火とその災害にどう備えていけば良いのかを議論する。

12:30 ~ 16:30

講義

2F大会議室

日本学術会議・防災学術連携体

ワークショップ

①「火山災害にどう備えるか」②「東京圏の大地震にどう備えるか」

地震災害や防災・減災、火山災害に関係の深い学会の代表と日本学術会議の専門家が集まり、地震や災害の発生メカニズム、観測、対策、情報提供、避難行動、救助などについて、一般向けにわかりやすくビジュアルに説明するとともに、今後、私たちはどう備えていけば良いのかを議論する。

2F 会議室201・202

10:00 ~ 12:00

講義

会議室201・202

国土防災技術株式会社

避難行動ゲーム-EVAG-【豪雨災害編】あなたは無事に避難できるか!

日々起こりうるさまざまな状況に置かれた住民が、災害時にどのような行動をとるかに着目した「避難行動」を体験する教材-EVAG-を体験します。自分とは異なる人をロールプレイしながら疑似体験をおこない、地域における「避難行動」をリアルにイメージしながら、地域防災の課題解決を考えるワークショップです。



13:00 ~ 15:00

講義

会議室201・202

東京消防庁・総務省消防庁

体験しよう!心肺蘇生法と救急受診ガイド

心停止の傷病者の命を救うには、まずその場に居合わせた住民の迅速な応急手当が必要です。心肺蘇生法やAEDなどの応急手当を学んで、尊い命を守りましょう!また、地域の限りある救急車を有効に活用するため、急な病気がけがをしたときの緊急性の判断を救急受診ガイドの体験を通じて学びましょう!

B1F 会議室001

13:30 ~ 15:00

講義

会議室001

一般社団法人 日本損害保険協会

首都直下地震を想定した避難所図上演習

被災者が一定期間生活を送る避難所では、避難者である住民が自主的に協力しあって運営していく必要があります。本ワークショップでは、図上演習を通じて避難所の運営や課題を体験することができます。

※演習の概要: オリエンテーション、避難所の開設・運営に関する事例と解説、演習実施、解説、質疑応答、講評

8月27日 土・28日 日 両日実施

10:00 ~ 17:00

10:00 ~ 15:00

2F 会議室203

展示

会議室203

一般財団法人日本気象協会

3分間の台風疑似体験日本気象協会「HERASEON」

豪雨や暴風(台風)を疑似体験するアトラクションです。「時間雨量80mmを超える雨」、「平均風速30m/sの暴風(台風)」を体験した人はいませんか? できれば体験したくないですね。HERASEON(ヘラセオン)は、画面に映った「あなた」が、このような災害レベルの台風を体験できます。

2F ロビー

展示

2Fロビー

総務省消防庁

女性消防吏員の活躍推進に向けた広報活動

女性消防吏員を積極的に採用し、活躍推進していくことで、女性の視点を含めた多様な視点で消防行政を行うことが可能となり、住民サービスの向上、消防組織の強化が促進され、消防・防災力の向上に資することとなります。就職を考える年齢層の女性に対して、リーフレット配布等を行い、消防は女性が活躍できるフィールドであることを広く知っていただく機会とします。



展示

2Fロビー

総務省消防庁

消防研究センターにおける防災推進に向けた取り組み

東日本大震災をはじめ近年の大規模化・多様化する災害等に対して、消防防災科学技術が果たす役割はますます重要になってきています。消防防災研究機関として、これまで蓄積してきた研究成果をもとに、消防研究センターが近年重点的に取り組んでいる研究開発の概要についてパネルにより展示を行います。

展示

2Fロビー

総務省消防庁・住宅防火対策推進協議会

住まいから始める安心・安全

住宅火災によって毎年約1,000人の方が亡くなっています。住宅などの財産だけでなく命をも奪う恐ろしい火災。住宅火災から命を守る住宅用防災機器などを紹介します。

展示

2Fロビー

総務省消防庁

災害時における避難行動

災害から身を守るためには、発災前に住民一人ひとりが適時的確な避難行動をとれるようになることが重要である。このため、どのようなタイミングで避難すべきか、また、そのためには平常時からどのようなことに備えておけばよいのかなどを示したパネルを展示し、広く住民に対し防災意識の向上を図る。

1F ロビー

展示

1Fロビー

国立研究開発法人 情報通信研究機構 耐災害ICT研究センター 災害に強い通信ネットワーク

国立研究開発法人 情報通信研究機構 耐災害ICT研究センターでは、災害時にも切れにくく、かつ、つながりやすい、いわゆる災害に強い通信ネットワークの研究開発を行っています。本スペースでは、開発した機器の一部と説明パネルを展示して、最新の耐災害通信システム及びその技術を紹介します。

展示

1Fロビー

一般社団法人 日本集団災害医学会 日本の災害医療体制・DMATと日本集団災害医学会

日本集団災害医学会と他学会の災害への備え、災害時の連携に関する取り組みを発表する。日本DMATは阪神大震災の経験から発足しこれまで東日本大震災など多岐にわたる災害時の医療活動を行っている。今後発生する確率が高いと言われている首都直下型地震等への対応のため日々研修・訓練を行っている。これらを発表する。

展示

1Fロビー

環境省 災害時の廃棄物対策 (パネル展示)

災害時においても公衆衛生の悪化の防止、生活環境保全のため、廃棄物やトイレ対策は非常に重要。近年、自然災害が頻発化・激甚化してきており、これまでの経験や教訓を踏まえた事前の備えの重要性について紹介します。

展示

1Fロビー

環境省 ごみのゆくえ!うんちのゆくえ!災害が起きたらどうなるの?

災害廃棄物や災害時のし尿の衛生処理に関する注意を喚起するため、パネル写真、簡易トイレや浄化槽のミニチュアモデルの展示、子ども向けクイズの配布を行います。

1F 談話ホール

10:30 ~、12:00 ~、14:00 ~

講義

1F談話ホール

全労済 「Dr.ナダレンジャーの防災科学実験ショー」

Dr.ナダレンジャーが身近なものを使って考案・制作した道具で、様々な自然災害の現象をわかりやすく楽しく解説する科学実験です。なだれ、突風、落石、地震などコワイ災害をおもちゃのようなミニチュアで再現します。幼児から小・中・高・大学生・大人まで楽しめる実験ショーです。



B1F 会議室002

展示

B1F002

全国消防長会・東京消防庁 リアルな揺れを体験『地震ザブトン』

たのしく防災をまなぶ「出張防災訓練」



B1F 食堂前

展示

B1F食堂前

日本労働組合総連合会 (連合) 連合の防災・減災への取り組み紹介

①東日本大震災ボランティア活動の紹介、②阪神淡路大震災ボランティア活動の紹介、③熊本県を中心とする九州地震ボランティア活動の紹介、④連合の防災・減災に関する取り組み紹介、⑤ボランティアの軌跡・DVD上映、⑥その他

展示

B1F食堂前

防災ジオラマ推進ネットワーク 段ボールジオラマ防災授業

組立式の段ボールジオラマキットを活用したワークショップ型の防災学習プログラムのご紹介です。自分の住んでいるエリアの地図が印刷された段ボールジオラマをみんなで組み立て、楽しみながらまちの地形や災害リスクを学ぶことができます。防災関連などの様々な情報をマッピングするなど、その後も地域の共有資産として活用いただけます。



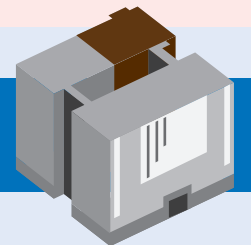
展示

B1F食堂前

熊本県 平成28年(2016年)熊本地震パネル展

熊本地震は震度7の地震がわずか28時間の間に2回も発生する観測史上初の大規模災害でした。本県では、全国の皆様からの温かいご支援を賜りながら復旧・復興に全力で取り組んでいるところです。パネル展示によりこの地震による被害についてご紹介いたします。

小柴ホール



8月27日(土)
2F ホール

10:00 ~ 12:00

講義

2Fホール

国立研究開発法人防災科学技術研究所 「攻め」の気象防災～交通と農業への波及～

「守り」の防災から「攻め」の防災へ。防災科学技術研究所の防災、減災技術を他分野に波及し、他機関と協働することで「攻め」の防災を実現します。防災科学技術研究所が培ってきた気象災害予測技術を鉄道、道路、航空、農業分野に波及させることでどのような課題解決が図れるのか議論します。

14:00 ～ 16:00

講義

2Fホール

一般社団法人 日本損害保険協会

シンポジウム「20XX年首都直下地震、その時、私たちの生活は」

首都圏における防災面での喫緊の課題の1つは首都直下地震への備えです。本シンポジウムでは、首都直下地震とはどのような地震か、住宅の倒壊による圧死や出火による焼死といった被害を軽減するため何をすべきか、さらに、人口が密集する東京での地震発生時の課題として帰宅困難への対応などをテーマに有識者によるシンポジウムを実施し、首都直下地震に対する備えと行動について考えます。

8月28日(日)

2F ホール

10:00 ～ 12:00

講義

2Fホール

地震調査研究推進本部(文部科学省)

地震調査研究推進本部シンポジウム

「熊本地震を踏まえた最前線の地震調査研究と日頃から考える防災・減災対策について」

地震調査研究推進本部(通称:地震本部)は、平成7年の阪神・淡路大震災をきっかけに設置され、政府全体として地震調査研究を推進してきました。本シンポジウムでは、地震について理解を深めるとともに、地震に備えることの重要性を知ることが目的とし、熊本地震を踏まえた最新の地震調査研究の成果や日頃から地震に備えるための防災・減災に関する取組を御紹介します。

12:30 ～ 14:30

講義

2Fホール

東北大学災害科学国際研究所

東日本大震災・熊本地震を踏まえた東北からの災害研究の発信

東日本大震災の翌年、東北大学の災害科学国際研究所は発足しました。東日本大震災の復興支援に加え、将来の大災害の発生メカニズムや被害軽減の研究など、実践的防災学を推進しています。今回の企画では、熊本地震など最近の災害を含む研究の最前線を分かりやすくご説明するとともに、今後の研究の展望もお示しします。

8月27日(土)・28日(日) 両日実施

10:00 ～ 17:00

10:00 ～ 15:00

2F 小柴ホワイエ

展示

2F小柴ホワイエ

国連国際防災戦略事務局 (UNISDR)

Global Efforts on Disaster Risk Reduction

- 防災に関するグローバルな取り組み -

2000年に設立された国連組織であり、持続可能な開発に不可欠な要素としての防災の重要性を高め、自然災害による被害・損失の減少、災害リスクの軽減を目指し、災害に強い国やコミュニティの構築を目的としています。2005年から2015年の10年間の国際的な防災指針「兵庫行動枠組」及びその後継となる「仙台防災枠組2015-2030」の実施推進、進捗モニタリングなどを含めた、防災・減災を推進するグローバルな取り組みを紹介いたします。

展示

2F小柴ホワイエ

国際復興支援プラットフォーム (IRP)

大規模災害からの「Build Back Better(より良い復興)」に向けた取組を発信

大規模災害からの「Build Back Better(より良い復興)」を促進するための国際的な協力の枠組として2005年5月に設立された国際的なプラットフォームです(構成機関:日本政府を含む16の政府、国連機関等)。復興支援ツールの開発、フォーラムの開催など、復興に関する知識の集積と情報発信をはじめとする国際社会における防災の取組を紹介します。



展示

2F小柴ホワイエ

MALCA・旭硝子(ガラスパワーキャンペーン)

マンションは在宅避難の時代へ

～マンションの防災力強化と安心安全を実現するために～

管理組合等のマンション関係者を対象に、マンションの防災力強化・向上について啓発し、南海トラフ巨大地震等への対策強化を促進するため、防災の普及啓発パネル展示及びマンション室内の安全対策パネル展示、マンションの安心安全を実現する「合わせガラス」の紹介、マンション防災の普及啓発パンフレットの配布等を行う。

展示

2F小柴ホワイエ

一般社団法人 日本損害保険協会

損害保険業界の防災・減災に関する取組み

損害保険業界の防災・減災に関する取組みをパネル掲示・VTR放映・冊子等の配付により紹介します。

※紹介する取組み: ぼうさい探検隊、ぼうさいダック、全国各地での消費者向け啓発取組み など

展示

2F小柴ホワイエ

公益社団法人日本地理学会災害対応委員会

公益社団法人日本地理学会・災害対応委員会の

これまでの取り組み

公益社団法人日本地理学会・災害対応委員会は、多分野にまたがる専門性を有する日本地理学会において、各種災害に組織的に対応するべく2001年に設立されました。地理学の特質は、災害発生から復興に至る過程の総合的研究を実施できることにあります。これまでの15年余の取り組みを、ひろく皆様にお知らせしたいと考えています。

展示

2F小柴ホワイエ

アジア防災センター

アジアの国際防災協力のハブとして

アジア30カ国の防災能力の強化、人々が安心して暮らせる地域づくり、持続可能な開発を可能にする社会づくり。アジア地域の防災能力向上に係る事業を展開し、アジアにおける防災関係者の人材交流を含む多国間のネットワークづくりを進めています。

展示

2F小柴ホワイエ

東北大学災害科学国際研究所

実践的防災学の体系化と地域実証・国際展開

2012年2月に設立された東北大学災害科学国際研究所では、東日本大震災からの教訓に基づく実践的防災学の体系化と地域での実証、そして、国際研究拠点の形成を推進しています。今回の展示では、当研究所の概要と力を入れている研究・実践の事例をご紹介します。

展示

2F小柴ホワイエ

地震調査研究推進本部(文部科学省)

地震調査研究推進本部の成果

「全国地震動予測地図2016年版」

地震調査研究推進本部(通称:地震本部)は、最新の地震調査研究の成果を取り入れながら、長期的な観点から将来地震が発生する可能性や揺れの強さを評価してきました。その成果を統合し、地震によって強い揺れに見舞われる確率などを地図に示したものが「全国地震動予測地図」です。この展示会場では、「全国地震動予測地図」の概要と活用例を御紹介します。

展示

2F小柴ホワイエ

日本ガス協会

都市ガス事業者の地震防災対策の取り組みと
平成28年熊本地震への対応

都市業界の取り組みに関するパネル模型を展示。

展示

2F小柴ホワイエ

内閣府(防災担当)

防災ポスターコンクール入賞作品展示

内閣府では、防災意識のより一層の高揚を図るため、防災に関するポスターデザインを広く一般から公募を行う「防災ポスターコンクール」を実施しています。昨年度行ったコンクールにおいて、入賞した作品を展示します。また、本年度行う32回コンクールの募集ポスターを掲示します。



展示

2F小柴ホワイエ

公益社団法人日本医師会

日本医師会と災害医療

日本医師会の紹介 日本医師会災害医療チーム(JMAT)の創設経緯・概要 東日本大震災および平成28年熊本地震における活動と今後各都道府県医師会における災害対策と事例 日本医師会におけるこれまでの災害対策(研修、研究、JAXA・NICTとの衛星利用実証実験、「被災者健康支援連絡協議会」ほか関係機関・団体との連携)

展示

2F小柴ホワイエ

仙台市

防災環境都市・仙台

東日本大震災の経験と教訓を踏まえ、将来の災害や気候変動リスクなどの脅威に備えるしなやかな都市、「防災環境都市づくり」を進めています。あらゆる施策の中で防災と環境配慮の「主流化」を進め、市民生活や経済活動の安全・安心や快適性を高いレベルで保つための取り組みをご紹介します。

展示

2F小柴ホワイエ

復興庁

色んな視点で考えよう!復興における男女共同参画

東日本大震災からの復興には、女性、子ども、障害者等を含めた多様な方の意見が反映されることが大切です。今回は、まちづくりや居場所づくりなどの視点から行われている東日本大震災に係る復興活動に関する男女共同参画の事例の紹介や、その他復興に関する情報を発信します。

展示

理学部1号館第4会議室

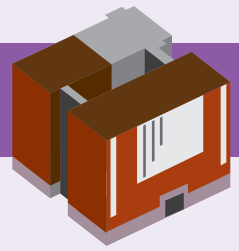
日本生活協同組合連合会

親子で楽しむ『オリジナル防災グッズ』

お子さんと一緒に楽しみながら防災意識を高めること、家庭内備蓄(自助)への理解推進が課題と考えています。夏休みの宿題としての自由研究にも使えるような、【オリジナル防災トートバッグ】作りにチャレンジしてみませんか。皆様のご来場をお待ちしております。



理学部1号館



8月27日(土)

中央棟2F 233講義室

※233講義室は入口が違います。詳しくは係員にお聞きください。

14:00 ~ 17:00

講義

233講義室

スマートシュリンク・地域柔軟化研究会

スマートシュリンクと地域の柔軟化
～安全な国土の再設計を目指して～

当研究会では、地域レジリエンスの向上と低炭素化を両立させ、国民総幸福最大化をはかる都市・地域縮退戦略策定モデルの構築と実証研究を行っています。その成果を、安全な国土への再設計を進める一助とするため、一般市民および行政関係者に紹介します。

西棟2F 206講義室

10:00 ~ 12:30

講義

206講義室

日本地質学会

都市の地下を知って安全な社会を!

日本国民の多くが住んでいる大都市の地下には、比較的若い時代の脆弱な地層が厚く存在し、長周期地震動によって高層ビルが大きく揺れたり、液状化や地盤沈下が発生しています。防災対策に必要不可欠な、ボーリング情報をはじめとした地下の地質情報の収集・公開に関するセミナーです。

13:00 ~ 15:00

講義

206講義室

日本学術会議

災害は貧困を加速する: 持続可能な開発に向けた
減災・防災の貢献

持続可能な開発を考えるためには、頻発する巨大災害や気候変動などの自然災害リスクに加えて、増大する世界人口や社会・経済活動の発展など、急速に変化する世界の諸問題に対する統合的アプローチが必要である。本セッションでは、持続可能な開発目標(SDGs)に関連する貧困と災害の問題を中心として、国際的な動向や問題解決に向けた科学・技術の役割について最新事例を紹介する。総合討論では、持続可能な社会の実現に向けた自然科学系と社会科学系の融合、さらには開発援助機関やNGOなどの実務者を含めた社会と学術界の連携のあり方について考えたい。

16:00 ~ 17:00

講義

206講義室

日本ガス協会

都市ガス事業者の地震防災対策の取り組みと
平成28年熊本地震への対応

一般の方に対して、これまでの大規模災害における都市ガス業界の取り組みや今後の備えについて紹介

2F 理学部1号館 第4会議室

西棟2F 201a講義室

10:00 ~ 11:30 講義 201a講義室

災害看護グローバルリーダー養成プログラム

いのちとくらしを支える災害看護 - 地域をつなげる防災へのチャレンジ -

私たちは国公立5大学により構成されている災害看護を専門とする博士課程の学生です。防災・減災に向けたこれまでの実践・研究活動の紹介などを通して、地域住民のいのちとくらしを支える災害看護について発信します。また、参加者の方々と現在の課題や将来の大規模災害の備えに対する意見交換を行いたいです。



14:30 ~ 17:00 講義 201a講義室

全国地域婦人団体連絡協議会

地域から見た防災対策

～避難所マニュアル、炊き出しネットワーク～

全地婦連加盟団体では、次の災害に対し、様々な準備を地域で重ねてきました。まず、東日本大震災の体験を共有し、それを準備に生かすべく、避難所設置マニュアルや高校生とともに取り組んだ防災頭巾の作成、その後の災害での炊き出し経験をもとに、ネットワーク作りにも取り組んでいます。その成果を発表します。

西棟2F 201b講義室

11:00 ~ 12:00 講義 201b講義室

環境省

災害時の廃棄物対策について

災害時においても公衆衛生の悪化の防止、生活環境の保全のため、廃棄物やトイレ対策は非常に重要です。近年、自然災害が頻発化・激甚化してきており、これまでの経験や教訓を踏まえた事前の備えの重要性について紹介します。

14:00 ~ 16:00 講義 201b講義室

MALCA・旭硝子(ガラスパワーキャンペーン)

マンションは在宅避難の時代へ

～マンションの防災力強化と安心安全を実現するために～

管理組合等のマンション関係者を対象に、マンションの防災力強化・向上について啓発し、南海トラフ巨大地震等への対策強化を促進し、大地震に負けないマンションライフを実現するための基礎知識を学び、マンションの安全安心を促進するためのセミナーを開催します。

8月28日(日)

中央棟2F 233講義室

11:00 ~ 12:00 講義 233講義室

防災安全協会

防災バンクのすすめ

13:00 ~ 15:00 講義 233講義室

消防庁／日本消防協会／全国消防長会／ 日本防火・防災協会

地域防災力の充実強化に向けて ～首都直下地震等の大規模災害に備えて～

西棟2F 206講義室

10:00 ~ 13:00 講義 206講義室

内閣府(防災担当)

地区防災計画フォーラム

東日本大震災や熊本地震は、地域住民の災害に対する自助、共助の重要性を改めて認識させられた。そこで、地区防災計画制度の意義、重要性を認識するとともに、地域において防災活動に積極的に取り組んでいる事例等を紹介し、今後、更なる地域防災力の向上を図ることを目的として、本フォーラムを開催します。

14:00 ~ 15:00 講義 206講義室

日本ガス協会

都市ガス事業者の地震防災対策の取り組みと 平成28年熊本地震への対応

一般の方に対して、これまでの大規模災害における都市ガス業界の取り組みや今後の備えについて紹介

西棟2F 201a講義室

10:30 ~ 12:00 講義 201a講義室

災害看護グローバルリーダー養成プログラム

いのちとくらしを支える災害看護

- 地域をつなげる防災へのチャレンジ -

私たちは国公立5大学により構成されている災害看護を専門とする博士課程の学生です。防災・減災に向けたこれまでの実践・研究活動の紹介などを通して、地域住民のいのちとくらしを支える災害看護について発信します。また、参加者の方々と現在の課題や将来の大規模災害の備えに対する意見交換を行いたいです。



13:00 ~ 15:00 講義 201a講義室

日本赤十字社

「忘れない」の先へ ～超世代「学び合い」ワークショップ～

阪神・淡路大震災や東日本大震災等過去の災害を振り返りながら、時系列に災害対応意識の変化を追ひ、防災・意識の風化等を超えてレジリエントな社会構築へどのように参画(自分化)するかを、ワークショップにより参加者と共有し、レジリエントな社会に向けて平時からひとり一人に求められることを考える契機とする。

西棟2F 201b講義室

13:00 ~ 15:00

講義

201b講義室

NPO法人日本トイレ研究所

災害時のトイレはどうなる？

それぞれのシーンを観て感じて、いざという時の備えを学ぼう

災害時にも安心してトイレを使えるようにするには、どのような備えが必要でしょうか？トイレは一人になれる大切な空間であり、命と尊厳にかかわります。「自宅編」「避難所編」「車中泊編」など、様々なシーンでのトイレ問題を紹介し、その時のトイレ対応方法を解説します。

8月27日(土)・28日(日) 両日実施
10:00 ~ 17:00 10:00 ~ 15:00

中央棟3F 336大講義室

展示

336大講義室

全労済

親子で学べる防災クイズ

親子で一緒に考えながら防災に関するクイズにチャレンジしていただきます。クイズはお子さまにも理解できる内容となっており、全問回答後には終了のスタンプ(防災クイズキャラクターのもしも君とそなえちゃん)を押すコーナーを設けるなど親子で楽しく学ぶことができます。

西棟3F 331講義室

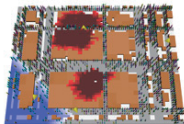
展示

331講義室

(株)構造計画研究所

シミュレーションで防災力を向上させよう!

見えない自然災害リスクを可視化・数値化するシミュレーション技術のデモ動画をご覧ください。自然災害や避難の様子をコンピュータ上で再現することで、みなさまがお住まいの地域の被災イメージを共有いただけます。自治体の地域防災計画をはじめ、コミュニティの地区防災計画の検討や効果検証を支援いたします。



理学部4号館

8月27日(土)

西棟2F 1220講義室

10:00 ~ 12:00

講義

1220講義室

東京海上日動・東北大学

東京海上グループ・東北大学 産学連携フォーラム

「安心・安全を未来につなぐ

-東日本大震災等で得られた教訓は活かされているか?-」

東日本大震災や熊本地震など避けることのできない大地震・大津波。安心・安全に暮らせる社会をつくり、未来の子どもたちにつなぐために、私たちにできることは?震災時に得られた経験や教訓を検証しながら、各界を代表するエキスパートが集い、考え、提案します。

14:00 ~ 17:00

講義

1220講義室

内閣府(科学技術・イノベーション担当)

/文部科学省/科学技術振興機構/防災科学技術研究所

災害大国日本を生き抜く

~SIP「レジリエントな防災・減災機能の強化」と熊本地震での取り組み~

本シンポジウムでは、検知後数分以内の津波遡上即時予測、ゲリラ豪雨及び強風域の1時間先予測、各種災害情報の共有、地震・津波・豪雨等を対象としたリアルタイム被害推定・状況把握等の最新の研究開発や熊本地震での実践を関係者とのディスカッションを通して広く国民にご紹介します。

8月28日(日)

西棟2F 1220講義室

10:00 ~ 12:00

講義

1220講義室

MS&ADインシュアランス グループ

気候変動時代! “官民連携”で考える防災・減災のまちづくり

~大規模水害にどう備えるか~

気候変動の進展により、想定外の降雨が地球規模で懸念されており、日本でもこのような水害への備えが課題となっています。大規模な浸水の発生に備え、産学官のパネリストを招き、“官民連携”を切り口に、防災・減災のまちづくりを考えます。

気候変動時代!

13:00 ~ 15:00

講義

1220講義室

内閣府(防災担当)

内閣府防災教室

~気象予報士と考える災害への備え~

地球温暖化により自然災害は激甚化するといわれています。このような自然災害に対し、私たち一人一人はどのように向き合えばいいのでしょうか?気象キャスター:寺川奈津美さんをゲストにお招きして、講演やクイズを通して、みなさんと一緒に考えます。



8月27日(土)・28日(日) 両日実施
10:00 ~ 17:00 10:00 ~ 15:00

西棟2F 1220講義室ホワイエ

展示

1220講義室ホワイエ

MS&ADインシュアランス グループ

MS&ADグループの防災・減災の取り組み

リスクソリューションとしての本業を通じ、万一の事態における損害の最小化や中核事業の早期復旧のためのBCP(事業継続計画)、被災地域の企業が抱える多様な経営課題の解決を図るための研修の実施等による東北復興支援活動、そのほか防災・減災のための取組についてご紹介します。

防災推進国民大会 講演等プログラム

※出展内容は予告なく変更になる場合があります。

8月27日 土			8月28日 日		
安田講堂	10:00 ～ 12:40		開会式 & メインフォーラム		10:00 ～ 12:00
	12:50 ～ 17:00		防災実践者による分野別のディスカッション		52 学会の結集による防災への挑戦 - 熊本地震における取組み
					12:30 ～ 14:30
					世界をリードする日本の防災技術とその国際展開
					14:40 ～ 15:00
					閉会式
	大会議室	2F	10:00 ～ 12:00	全国ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 『多様化する避難の形態に即した支援と連携のあり方について考える』	10:00 ～ 11:50
		201302	13:00 ～ 15:00	日本赤十字社 『備えあれば安心 ～救急法の基礎知識～』	日本火山学会 『火山防災シンポジウム「最近の噴火にみる火山研究と防災」』
			15:00 ～ 17:00	日本赤十字社『災害が起こった時に～あなたが支援できること～』	12:30 ～ 16:30
	山上会館	1F	10:00 ～ 12:30	気象庁 『気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする？」』	日本学術会議・防災学術連携体 『ワークショップ ①「火山災害にどう備えるか」②「東京圏の大地震にどう備えるか」』
		ロビー	13:30 ～ 17:00	防災ガール 『津波防災に挑む!共感を集める「ムーブメント」と「最新テクノロジー」』	10:00 ～ 12:00
			10:30 ～ 12:00 ～ 14:00 ～	全労済 『「Dr. ナダレンジャーの防災科学実験ショー」』	国土防災技術株式会社 『避難行動ゲーム-EVAG-【豪雨災害編】 あなたは無事に避難できるか!』
	B1F	001	10:00 ～ 12:00	防災ジオラマ推進ネットワーク 『みんなで作ろう!段ボールジオラマ ワークショップ』	13:00 ～ 15:00
		002	13:30 ～ 17:00	全国子ども会連合会 『防災・減災意識を高める座談会』	東京消防庁・総務省消防庁 『体験しよう!心肺蘇生法と救急受診ガイド』
			10:00 ～ 17:00	全国消防長会・東京消防庁 リアルな揺れを体験『地震ザブトン』	10:30 ～ 12:00 ～ 14:00 ～
小柴ホール	2F	ホール	10:00 ～ 12:00	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 『「攻め」の気象防災～交通と農業への波及～』	全労済 『「Dr. ナダレンジャーの防災科学実験ショー」』
		第4会議室	14:00 ～ 16:00	日本損害保険協会 シンポジウム『「20XX 年首都直下地震、その時、私たちの生活は」』	
			10:00 ～ 17:00	日本生活協同組合連合会 親子で楽しむ『オリジナル防災グッズ』	13:30 ～ 15:00
			14:00 ～ 17:00	スマートシュリンク / 地域柔韌研究会 『スマートシュリンクと地域の柔韌化～安全な国土の再設計を目指して～』	日本損害保険協会 『首都直下地震を想定した避難所図上演習』
理学部1号館	中央棟2F	233	10:00 ～ 12:00	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 『「攻め」の気象防災～交通と農業への波及～』	10:00 ～ 12:00
		336	14:00 ～ 16:00	日本損害保険協会 シンポジウム『「20XX 年首都直下地震、その時、私たちの生活は」』	地震調査研究推進本部 (文部科学省) 『地震調査研究推進本部シンポジウム 「熊本地震を踏まえた最前線の地震調査研究と 日頃から考える防災・減災対策について」』
	中央棟3F	206	10:00 ～ 12:00	日本地質学会 『都市の地下を知って安全な社会を!』	12:30 ～ 14:30
		201a	13:00 ～ 15:00	日本学術会議 『「災害は貧困を加速する：持続可能な開発に向けた減災・防災の貢献」』	東北大学災害科学国際研究所 『東日本大震災・熊本地震を踏まえた東北からの災害研究の発信』
	西棟2F	201b	16:00 ～ 17:00	日本ガス協会 『都市ガス事業者の地震防災対策の取り組みと平成 28 年熊本地震への対応』	10:00 ～ 15:00
			10:00 ～ 11:30	災害看護グローバルリーダープログラム 『いのちとくらしを支える災害看護-地域をつなげる防災へのチャレンジ-』	日本生活協同組合連合会 親子で楽しむ『オリジナル防災グッズ』
			14:30 ～ 17:00	全国地域婦人団体連絡協議会 『地域から見た防災対策～避難所マニュアル、炊き出しネットワーク～』	11:00 ～ 12:00
			11:00 ～ 12:00	環境省 『災害時の廃棄物対策について』	防災安全協会 『防災バンクのすすめ』
			14:00 ～ 16:00	MALCA・旭硝子 (ガラスパワーキャンペーン) 『マンションは在宅避難の時代へ ～マンションの防災力強化と安心安全を実現するために～』	13:00 ～ 15:00
			10:00 ～ 12:00	東京海上日動・東北大学 『東京海上グループ・東北大学 産学連携フォーラム 「安心・安全を未来につなぐ - 東日本大震災等で得られた教訓は活かされているか? -」』	消防庁 / 日本消防協会 / 全国消防長会 / 日本防火・防災協会 『地域防災力の充実強化に向けて～首都直下地震に備えて～』
理学部4号館	2F	1220	14:00 ～ 17:00	内閣府政策統括官 (科学技術・イノベーション担当) 文部科学省 科学技術振興機構 防災科学技術研究所 『災害大国日本を生き抜く ～ SIP「レジリエントな防災・減災機能の強化」と熊本地震での取り組み～』	10:00 ～ 15:00
			10:00 ～ 12:00	M S & A D インシユアランスグループ 『気候変動時代! “官民連携” で考える防災・減災のまちづくり ～大規模水害にどう備えるか～』	全労済 『親子で学べる防災クイズ』

お帰りの際はアンケートにご協力ください。このプログラムをお配りした袋に入っています。ご記入いただいたアンケートは、安田講堂のアンケート回収BOXに入れるか、お近くの運営スタッフにお渡しください

